

# ゼカリヤ書

## Zechariah

旧約聖書

## 第1章

- 1 ダレイオスの第二年、第八の月に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような主のことばがあった。
- 2 「主はあなたがたの先祖に激しく怒った。
- 3 あなたは人々に言え。『万軍の主はこう言われる。わたしに帰れ。一万軍の主のことば—そうすれば、わたしもあなたがたに帰る。一万軍の主は言われる。』
- 4 あなたがたの先祖のようであってはならない。先の預言者たちは彼らに叫んで言った。『万軍の主はこう言われる。あなたがたは悪の道と悪しきわざから立ち返れ。』しかし、彼らはわたしに聞かず、わたしに耳を傾けもしなかった。—主のことば—
- 5 あなたがたの先祖たちは、今どこにいるのか。預言者たちは永遠に生きるだろうか。
- 6 しかし、わたしのしもべである預言者たちにわたしが命じた、わたしのことばと掟は、あなたがたの先祖に追い迫ったではないか。それで彼らは立ち返って言ったのだ。『万軍の主は、私たちの生き方と行いに応じて、私たちにしようと考えたことをそのとおりになさった』と。」
- 7 ダレイオスの第二年、シェバテの月である第十一の月の二十四日に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような主のことばがあった。
- 8 夜、私が見ると、なんと、一人の人が赤い馬に乗っていた。その人は、谷底にあるミルトスの木の間に立っていた。そのうしろには、赤毛や栗毛や白い馬がいた。
- 9 私は「主よ、これらの馬は何ですか」と尋ねた。すると、私と話していた御使いが「これらが何なのか、あなたに示そう」と言った。
- 10 すると、ミルトスの木の間に立っていた人が答えた。「これらは、地を歩き巡るために主が遣わされた者たちだ。」
- 11 すると彼らは、ミルトスの木の間に立っている主の使いに答えた。「私たちは地を歩き巡りましたが、まさに全地は安らかで穏やかでした。」
- 12 それに答えて主の使いは言った。「万軍の主よ。いつまで、あなたはエルサレムとユダの町々に、あわれみを施されないのですか。あなたが憤られて七十年になります。」
- 13 すると主は、私と話していた御使いに、恵みのことば、慰めのことばで答えられた。
- 14 私と話していた御使いは私に言った。「叫んで言え。『万軍の主はこう言われる。わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど激しく愛した。
- 15 しかし、わたしは大いに怒る。安逸を貪っている国々に対して。わたしが少ししか怒らないでいると、彼らは欲するままに悪事を行った。』
- 16 それゆえ、主はこう言われる。『わたしは、あわれみをもってエルサレムに帰る。そこにわたしの宮が建て直される。一万軍の主のことば—測り縄がエルサレムの上に張られる。』
- 17 もう一度叫んで言え。『万軍の主はこう言われる。わたしの町々には、再び良いものが満ちあふれ、主は再びシオンを慰め、再びエルサレムを選ぶ。』」
- 18 私が目を上げて見ると、なんと、四つの角があった。
- 19 私と話していた御使いに「これらは何ですか」と尋ねると、彼は言った。「これらは、ユダとイスラエルとエルサレムを散らした角だ。」
- 20 そのとき、主は四人の職人を私に見せてくださった。

- 21 私が「この人たちは、何をしに来たのですか」と尋ねると、主は次のように言われた。「これらはユダを散らして、だれにも頭をもたげさせなかったあの角だ。この人たちは、これらの角を震え上がらせるために、やって来たのだ。ユダの地を散らそうと角をもたげる国々の角を打ち滅ぼすためだ。」

## 第2章

- 1 私が目を上げて見ると、なんと、一人の人がいた。その手には、一本の測り綱があった。
- 2 私が「あなたはどこへ行くのですか」と尋ねると、彼は私に「エルサレムを測りに。その幅と長さがどれほどあるかを見るために」と答えた。
- 3 すると見よ、私と話していた御使いが出て行った。また、もう一人の御使いが、その御使いに会うために出て行き、
- 4 彼に言った。「走って行って、あの若い者にこう告げよ。『エルサレムは、その中に人と家畜があふれ、城壁のない町のようになる。』
- 5 わたしが—主のことば—それを取り巻く火の城壁となる。わたしがそのただ中で栄光となる。
- 6 さあ、すぐに、北の国から逃げよ。—主のことば—天の四方の風のように、わたしがあなたがたを散らしたのだ。—主のことば—
- 7 さあ、シオンに逃れよ。娘バビロンとともに住む者よ。』
- 8 あなたがたを略奪した国々に 主の栄光が私を遣わした後、万軍の主がこう言われたからだ。『あなたがたに触れる者は、わたしの瞳に触れる者。』
- 9 見よ、わたしは彼らに手を振り上げる。彼らは自分に仕えた者たちに略奪される』と。このときあなたがたは、万軍の主が私を遣わされたことを知る。
- 10 『娘シオンよ、喜び歌え。楽しめ。見よ。わたしは来て、あなたのただ中に住む。—主のことば—
- 11 その日、多くの国々が主に連なり、わたしの民となり、わたしはあなたのただ中に住む。』このときあなたは、万軍の主が私をあなたに遣わされたことを知る。
- 12 主は聖なる土地で、ユダをご自分の受ける分とし、エルサレムを再び選ばれる。
- 13 すべての肉なる者よ、主の前で静まれ。主が聖なる御住まいから立ち上がられるからだ。」

## 第3章

- 1 主は、主の使いの前に立っている大祭司ヨシュアを私にお見せになった。サタンが彼を訴えようとしてその右手に立っていた。
- 2 主はサタンに言われた。「サタンよ、主がおまえをとがめる。エルサレムを選んだ主が、おまえをとがめる。この者は、火から取り出した燃えさしではないか。」
- 3 ヨシュアは汚れた服を着て、主の使いの前に立っていた。
- 4 御使いは、自分の前に立っている者たちにこう答えた。「彼の汚れた服を脱がせよ。」そしてヨシュアに言った。「見よ、わたしはあなたの咎を除いた。あなたに礼服を着せよう。」
- 5 私は言った。「彼の頭に、きよいターバンをかぶらせなければなりません。」すると彼らは、彼の頭にきよいターバンをかぶらせ、服を着せた。そのとき、主の使いはそばに立っていた。

- 6 主の使いはヨシュアを諭して言った。
- 7 「万軍の主はこう言われる。『もし、あなたがわたしの道に歩み、わたしの戒めを守るなら、あなたもまた、わたしの家を治め、わたしの庭を守るようになる。この立っている者たちの間に出入りすることを わたしはあなたに許す。』」
- 8 聞け、大祭司ヨシュアよ。あなたも、あなたの前に座している同僚たちも。彼らはしるしとなる人たちだ。見よ、わたしはわたしのしもべ、若枝を来させる。
- 9 見よ、わたしがヨシュアの前に置いた石を。一つの石の上には、七つの目がある。見よ、わたしはそれに文字を彫る。—万軍の主のことば— 一日のうちに、わたしはその地の咎を取り除く。
- 10 その日には、—万軍の主のことば— あなたがたは互いに自分の友を、ぶどうの木といちじくの木の下に招き合う。』」

## 第4章

- 1 私と話していた御使いが戻って来て、私を呼び起こした。私は眠りから覚まされた人のようであった。
- 2 彼は私に言った。「あなたは何を見ているのか。」私は答えた。「私が見ると、全体が金でできている一つの燭台があります。その上部には鉢があり、その鉢の上には七つのともしび皿があります。この上部にあるともしび皿には、それぞれ七本の管が付いています。」
- 3 また、そのそばには二本のオリーブの木があり、一本はその鉢の右に、もう一本は左にあります。」
- 4 私は、私と話していた御使いに言った。「主よ、これらは何ですか。」
- 5 私と話していた御使いが答えて言った。「あなたは、これらが何であることを知らないのか。」私は言った。「主よ、知りません。」
- 6 彼は私にこう答えた。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の主は言われる。
- 7 大いなる山よ、おまえは何者か。おまえはゼルバベルの前で平らにされる。彼がかしら石を運び出せば、『恵みあれ。これに恵みあれ』と叫び声があがる。」
- 8 また、私に次のような主のことばがあった。
- 9 「『ゼルバベルの手がこの宮の礎を据えた。彼の手がそれを完成させる。』 そのときあなたは、万軍の主が私をあなたがたに遣わされたことを知る。
- 10 だれが、その日を小さなこととして蔑むのか。人々はゼルバベルの手にある重り縄を見て喜ぶ。これら七つは、全地を行き巡る主の目である。」
- 11 私は彼に尋ねた。「燭台の左右にある、この二本のオリーブの木は何ですか。」
- 12 そして再び尋ねた。「二本の金の管によって金の油を注ぎ出す、このオリーブの二本の枝は何ですか。」
- 13 すると彼は私にこう言った。「あなたは、これらが何であることを知らないのか。」私は言った。「主よ、知りません。」
- 14 彼は言った。「これらは、全地の主のそばに立つ、二人の油注がれた者だ。」

## 第5章

- 1 私が再び目を上げて見ると、なんと、一つの巻物が飛んでいた。
- 2 御使いは私に言った。「あなたは何をみているのか。」私は答えた。「飛んでいる巻物を見えています。その長さは二十キュビト、幅は十キュビトです。」
- 3 すると彼は私に言った。「これは全地の面に出て行くのろいだ。盗む者はみな、一方の面に照らし合わせて取り除かれ、また、偽って誓う者はみな、もう一方の面に照らし合わせて取り除かれる。」
- 4 「わたしがそれを送り出す。一万軍の主のことば—それは盗人の家に、また、わたしの名によって偽りの誓いを立てる者の家に入り、その家の真ん中にとどまって、その家を梁と石とともに絶ち滅ぼす。」
- 5 私と話していた御使いが出て来て、私に言った。「目を上げて、この出て行く物が何かを見よ。」
- 6 私が「これは何ですか」と尋ねると、彼は言った。「これは、出て行くエパ升だ。」さらに言った。「これは、全地にある彼らの目だ。」
- 7 見よ。鉛のふたが持ち上げられると、エパ升の中に一人の女が座っていた。
- 8 彼は、「これは邪悪そのものだ」と言って、その女をエパ升の中に閉じ込め、エパ升の口の上に鉛の重しを置いた。
- 9 それから、私が目を上げて見ると、なんと、二人の女が出て来た。その翼は風をはらんでいた。彼女たちには、こうのとりの翼のような翼があり、あのエパ升を地と天の間に持ち上げた。
- 10 私は、私と話していた御使いに尋ねた。「この人たちは、エパ升をどこへ持って行くのですか。」
- 11 彼は私に言った。「シナルの地に、あの女のために神殿を建てたためだ。それが整うと、その台の上にその升を置くのだ。」

## 第6章

- 1 私が再び目を上げて見ると、なんと、四台の戦車が二つの山の間から出て来た。山は青銅の山であった。
- 2 第一の戦車には赤い馬が、第二の戦車には黒い馬が、
- 3 第三の戦車には白い馬が、第四の戦車には斑毛の強い馬が、数頭ずつつながれていた。
- 4 私は、私と話していた御使いに尋ねた。「主よ、これらは何ですか。」
- 5 御使いは答えた。「これらは天の四方の風だ。全地の主の前に立った後に、出て行くことになる。」
- 6 そのうちの黒い馬は北の地へ出て行き、白い馬は西へ出て行き、斑毛の馬は南の地へ出て行く。」
- 7 強い馬たちが出て来た。それらは地を駆け巡ろうとしていたので、彼が「行って、地を駆け巡れ」と言うと、それらは地を駆け巡った。
- 8 そのとき、彼は私に叫んで、次のように告げた。「見よ、北の地へ出て行った馬を。これらは北の地で、わたしの霊を鎮めた。」

- 9 また、私に次のような主のことばがあった。
- 10 「捕囚の民であったヘルダイ、トビヤ、エダヤからささげ物を受け取れ。その日あなたは行って、バビロンから帰って来た、ゼパニヤの子ヨシヤの家に入れ。
- 11 銀と金を取って冠を作って、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアの頭にかぶらせ、
- 12 彼にこう言え。『万軍の主はこう言われる。見よ、一人の人を。その名は若枝。彼は自分のいるところから芽を出し、主の神殿を建てる。
- 13 彼が主の神殿を建て、彼が威光を帯び、王座に就いて支配する。その王座の傍らに一人の祭司がいて、二人の間には、平和の計画がある。』
- 14 その冠は、ヘルダイ、トビヤ、エダヤ、ゼパニヤの子ヨシヤの記念として、主の神殿の中に残る。
- 15 また、遠く離れていた者たちも来て、主の神殿を建てる。このときあなたがたは、万軍の主が私をあなたがたに遣わしたことを知る。もしあなたがたが自分たちの神、主の声に確かに聞き従うなら、そのようになる。」

## 第7章

- 1 ダレイオス王の第四年、第九の月、すなわち、キスレウの月の四日に、ゼカリヤに主のことばがあった。
- 2 そのとき、ベテルは主の御顔を求めるために、サル・エツェルとレゲム・メレクおよびその従者たちを遣わして、
- 3 万軍の主の宮に仕える祭司たちと、預言者たちに尋ねた。「私が長年やってきたように、第五の月にも、断食をして泣かなければならないでしょうか。」
- 4 すると、私に次のような万軍の主のことばがあった。
- 5 「この国のすべての民と祭司たちにこう言え。この七十年の間、あなたがたが、第五の月と第七の月に断食して嘆いたとき、本当にこのわたしのために断食したのか。
- 6 あなたがたが食べたり飲んだりするとき、食べるのも飲むのも、自分たちのためではなかったか。
- 7 エルサレムとその周りの町々に人が住み、平和であったとき、またネゲブやシェフェラに人が住んでいたとき、主が先の預言者たちを通して告げたことばは、これらのことではなかったのか。」
- 8 それから、ゼカリヤに次のような主のことばがあった。
- 9 万軍の主はこう言われる。「真実のさばきを行い、誠意とあわれみを互いに示せ。
- 10 やもめ、みなしご、寄留者、貧しい者を虐げるな。互いに対して、心の中で悪を企むな。」
- 11 ところが、彼らは拒んでこれを聞こうともせず、肩を怒らせ、その耳を鈍くして聞き入れなかった。
- 12 彼らは心を金剛石のようにし、万軍の主がその御霊によって先の預言者たちを通して送られた、みおしえとみことばを聞き入れなかった。そのため、万軍の主から大きな御怒りが下った。
- 13 「彼らは呼ばれても聞かなかった。そのように、彼らが呼んでも、わたしは聞かない—万軍の主は言われる—。

- 14 わたしは、彼らを知らないすべての国々に彼らを吹き散らした。この地は、彼らが去った後荒れすたれ、行き来する者もいなくなった。こうして彼らはこの慕わしい国を荒れすたせ  
た。」

## 第8章

- 1 次のような万軍の主のことばがあった。
- 2 万軍の主はこう言われる。「わたしは、シオンをねたむほど激しく愛し、激しい憤りをもってこれをねたむ。
- 3 一主はこう言われる— わたしはシオンに帰り、エルサレムのただ中に住む。エルサレムは、真実の都と呼ばれ、万軍の主の山は、聖なる山と呼ばれる。
- 4 一万軍の主はこう言われる— 再び、エルサレムの広場に、老いた男、老いた女が座り、みな長寿で手に杖を持つ。
- 5 都の広場は、男の子と女の子でいっぱいになる。子どもたちはその広場で遊ぶ。
- 6 一万軍の主はこう言われる— もし、これがその日に、この民の残りの者の目には不思議に見えても、わたしの目には、不思議に見えるだろうか。一万軍の主のことば。」
- 7 万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしは、わたしの民を 日の出る地と日の沈む地から救い、
- 8 彼らを連れ帰り、エルサレムのただ中に住ませる。このとき、彼らはわたしの民となり、わたしは真実と義をもって彼らの神となる。」
- 9 万軍の主はこう言われる。「勇気を出せ。万軍の主の家である神殿を建てるために基が据えられた日以来、あなたがたはこれらのことばを、預言者たちの口から聞いてきたではないか。
- 10 その日以前は、人の働きに報酬がなく、家畜の働きにも報酬がなかった。出て行く者にも、帰って来る者にも、敵がいるために平安がなかった。わたしがすべての人を互いに争わせたからだ。
- 11 しかし今、わたしはこの民の残りの者に対して、かつての日々のようではない。一万軍の主のことば—
- 12 それは、平安の種が蒔かれ、ぶどうの木が実を結び、地が産物を出し、天が露を滴らすからだ。わたしはこの民の残りの者に、これらすべてを受け継がせる。
- 13 ユダの家よ、イスラエルの家よ。あなたがたは国々の間でのろいとなったが、同様に、わたしはあなたがたを救う。あなたがたは祝福となる。恐れるな。勇気を出せ。」
- 14 まことに、万軍の主はこう言われる。「あなたがたの先祖がわたしを怒らせたとき、わたしはあなたがたにわざわいを下そうと決意し—万軍の主は言われる—わたしは思い直さなかった。
- 15 そのように、今や再び、わたしはエルサレムとユダの家に幸いを下そうと決意した。恐れるな。
- 16 これがあなたがたのなすべきことだ。あなたがたはそれぞれ隣人に対して真実を語り、真実と平和をもたらす公正さをもって、あなたがたの門の中でさばきを行え。
- 17 互いに心の中で悪を謀るな。偽りの誓いを愛するな。これらはみな、わたしが憎むものだからだ。一主のことば。」
- 18 さらに、私に次のような万軍の主のことばがあった。

- 19 万軍の主はこう言われる。「第四の月の断食、第五の月の断食、第七の月の断食、第十の月の断食は、ユダの家にとって、楽しみとなり、喜びとなり、うれしい例祭となる。だから、真実と平和を愛しなさい。」
- 20 万軍の主はこう言われる。「再び諸国の民がやって来る。多くの町々の住民が。」
- 21 一つの町の住民はもう一つの町へ行き、『さあ行って、主の御顔を求め、万軍の主を尋ね求めよう。私も行こう』と言う。
- 22 多くの国の民、強い国々が、エルサレムで万軍の主を尋ね求め、主の御顔を求めるために来る。」
- 23 万軍の主はこう言われる。「その日には、外国語を話すあらゆる民のうちの十人が、一人のユダヤ人の裾を固くつかんで言う。『私たちもあなたがたと一緒に行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたから。』」

## 第9章

- 1 宣告。主のことばはハデラクの地にあり、ダマスコは、それがとどまる場所。主に向けられるのは、人々の、そしてイスラエルの全部族の目。
- 2 これに境を接するハマテや、非常に知恵のあるツロヤシドンの目も。
- 3 ツロは自分のために砦を築き、銀をちりのように、黄金を道端の泥のように積み上げた。
- 4 見よ。主はツロを占領し、その富を海に打ち捨てる。ツロは火で焼き尽くされる。
- 5 アシュケロンは見て恐れ、ガザも大いにもだえる。エクロンもだ。自分たちが頼みにしていたものが辱められたからだ。ガザから王が消え失せ、アシュケロンには人が住まなくなる。
- 6 アシュドデには混血の民が住むようになる。わたしはペリシテ人の誇りを断ち切り、
- 7 その口から流血の咎を、その歯の間から忌まわしいものを取り除く。彼も、私たちの神のために残され、ユダの中の一酋長ようになる。エクロンもエブス人ようになる。
- 8 わたしは、わたしの家のために、行き来する者の見張りとして衛所に立つ。もはや、虐げる者はそこを通らない。今わたしがこの目で見ているからだ。
- 9 娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である、ろばに乗って。
- 10 わたしは戦車をエフライムから、軍馬をエルサレムから絶えさせる。戦いの弓も絶たれる。彼は諸国の民に平和を告げ、その支配は海から海へ、大河から地の果てに至る。
- 11 あなたについても、あなたとの契約の血のゆえに、わたしはあなたの捕らわれ人を、水のないうちから解放放つ。
- 12 望みを持つ捕らわれ人よ、砦に帰れ。わたしは今日もまた告げ知らせる。二倍のものをあなたに返す、と。
- 13 わたしは、ユダをわたしの弓として引き絞り、これにエフライムをつがえたのだ。ヤワンよ、おまえの子らに向かって。シオンよ、わたしはあなたの子らを奮い立たせ、あなたを勇士の剣のようにする。
- 14 主は彼らの上に現れ、その矢は稲妻のように放たれる。神である主は角笛を吹き鳴らし、南の暴風の中を進まれる。

- 15 万軍の主が彼らの盾となる。彼らは石投げの石で滅ぼし、踏みつける。彼らは血をぶどう酒のように飲み、沸き返る。鉢のように、祭壇の四隅のように、満たされる。
- 16 その日、彼らの神、主は、彼らをご自分の民の群れとして救われる。まことに、王冠の宝石がその地できらめく。
- 17 なんとという主のいつくしみ。なんとという主の麗しさ。穀物は若い男たちを、新しいぶどう酒は若い女たちを栄えさせる。

## 第10章

- 1 主に雨を求めよ、後の雨の時に。主は稲光を造り、大雨を人々に、野の草をすべての人に下さる。
- 2 テラフィムは不法を語り、占い師は偽りを見る。夢見る者は意味のないことを語り、空しい慰めを与える。それゆえ、人々は羊のようにさまよい、羊飼いがいないので苦しむ。
- 3 「わたしの怒りは羊飼いたちに向かって燃える。わたしは雄やぎを罰する。」万軍の主は、ご自分の群れであるユダの家を訪れ、彼らを戦場の威厳ある馬とされる。
- 4 この群れからかしら石が、この群れから杭が、この群れから戦いの弓が、この群れからすべての指揮する者が、ともどもに出て来る。
- 5 彼らは勇士のようになり、戦場で道端の泥を蹴散らして戦う。主が彼らとともにおられるからだ。彼らは馬に乗る者どもを辱める。
- 6 「わたしはユダの家を力づけ、ヨセフの家を救う。わたしは彼らを連れ戻す。わたしが彼らをあわれむからだ。彼らは、わたしに捨てられなかった者のようになる。わたしが彼らの神、主であり、彼らに答えるからだ。」
- 7 エフライムは勇士のようになり、その心はぶどう酒に酔ったように喜ぶ。彼らの子らは見て喜び、その心は主にあって大いに楽しむ。
- 8 「わたしは合図をして彼らを集める。わたしが彼らを贖ったからだ。彼らは以前のように数を増す。
- 9 わたしは彼らを諸国の民の間にまき散らすが、彼らは遠く離れてわたしを思い出し、その子らとともに生き延びて帰って来る。
- 10 わたしは彼らをエジプトの地から連れ帰り、アッシリアから集める。わたしはギルアデの地とレバノンへ彼らを連れて行くが、そこも彼らには足りなくなる。
- 11 彼らは苦難の海を渡る。海では波を打ち破り、ナイル川のすべての淵を涸らす。アッシリアの誇りは低くされ、エジプトの杖は離れ去る。
- 12 わたしは主にあって彼らを力づける。彼らは主の名によって歩き続ける。—主のことば。」

## 第11章

- 1 レバノンよ、おまえの門を開け。火がおまえの杉の木を焼き尽くす。
- 2 もみの木よ、泣き叫べ。杉の木は倒れ、見事な木々が荒らされたから。バシヤンの榎の木よ、泣き叫べ。深い森が倒れたから。
- 3 牧者たちの嘆きの声がある。彼らの見事な木々が荒らされたから。若い獅子の吼える声がある。ヨルダンの茂みが荒らされたから。

- 4 私の神、主はこう言われた。「屠られる羊の群れを飼え。
- 5 これを買った者は、これを屠っても責めを覚えることはなく、これを売る者も、『主がほめたたえられるように。私は豊かになった』と言う。その牧者たちは羊をあわれまない。
- 6 それは、わたしがもはや、この地の住民にあわれみをかけないからだ—主のことば—。見よ、わたしは、人をそれぞれ隣人の手に、また王の手に渡す。彼らはこの地を打ち砕くが、わたしは彼らの手からこれを救い出さない。」
- 7 私は羊の商人たちのために、屠られる羊の群れを飼った。私は二本の杖を取り、一本を「慈愛」と名づけ、もう一本を「結合」と名づけた。こうして私は群れを飼った。
- 8 私は一月のうちに三人の牧者を退けた。私の心は彼らに我慢できなくなり、彼らの心も私を嫌った。
- 9 私は言った。「私はもう、おまえたちを飼わない。死ぬ者は死ぬ。滅びゆく者は滅びよ。残りの者は、互いに相手の肉を食べるがよい。」
- 10 私は、自分の杖、「慈愛」の杖を取って折った。私が諸国の民すべてと結んだ、私の契約を破棄するためであった。
- 11 その日、それは破棄された。そのとき、私を見守っていた羊の商人たちは、それが主のことばであったことを知った。
- 12 私は彼らに言った。「あなたがたの目にかなうなら、私に賃金を払え。もしそうでないなら、やめよ。」すると彼らは、私の賃金として銀三十シケルを量った。
- 13 主は私に言われた。「それを陶器師に投げ与えよ。わたしが彼らに値積もりされた、尊い価値を。」そこで私は銀三十を取り、それを主の宮の陶器師に投げ与えた。
- 14 そして私は、「結合」というもう一本の杖を折った。ユダとイスラエルとの間の兄弟関係を破棄するためであった。
- 15 主は私に言われた。「もう一度、愚かな牧者の道具を取れ。
- 16 見よ。それは、わたしが一人の牧者をこの地に起こすからだ。彼は迷い出たものを尋ねず、散らされたものを捜さず、傷ついたものを癒やさず、衰え果てたものに食べ物を与えない。かえって肥えた獣の肉を食らい、そのひづめを裂く。
- 17 わざわいだ。羊の群れを見捨てる、能なしの牧者。剣がその腕と右の目を打ち、その腕はすっかり萎えて、右の目の視力は衰える。」

## 第12章

- 1 宣告。イスラエルについての主のことば。天を張り、地の基を定め、人の霊をそのうちに造られた方、主の告げられたことば。
- 2 「見よ。わたしはエルサレムを、その周りのあらゆる民をよろめかせる杯とする。エルサレムが包囲されるとき、ユダについてもそうなる。
- 3 その日、わたしはエルサレムを、どの民にとっても重い石とする。すべてそれを担ぐ者は、身にひどい傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来る。
- 4 その日—主のことば—わたしはすべての馬を打って驚かし、その乗り手を狂わせる。しかし、わたしはユダの家の上に目を見開き、もろもろの民のすべての馬を打ってその目を見えなくする。

- 5 ユダの首長たちは心の中で言う。『エルサレムの住民は、彼らの神、万軍の主によって私の力となる。』
- 6 その日、わたしはユダの首長たちを、薪の中にある火鉢のようにし、麦束の中にある燃えるたいまつのようにする。彼らは右も左も、周りにいるどの民も焼き尽くす。しかしエルサレムはなお、元の場所エルサレムに残る。
- 7 主は最初にユダの天幕を救う。ダビデの家の栄えと、エルサレムの住民の栄えが、ユダ以上に大きくなるようにするためである。
- 8 その日、主はエルサレムの住民をかくまう。その日、彼らの中のある者が倒れる者もダビデのようになり、ダビデの家は神のようになって、彼らの先頭に立つ主の使いのようになる。
- 9 その日、わたしはエルサレムに攻めて来るすべての国々を根絶やしにしよう。
- 10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。
- 11 その日、エルサレムでの嘆きは、メギドの平地のハダド・リンモンのための嘆きのようになり、大きくなる。
- 12 この地は、あの氏族もこの氏族もひとり嘆く。ダビデの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。ナタン家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。
- 13 レビ家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。シムイの氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。
- 14 残りのすべての氏族は、あの氏族もこの氏族もひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。

## 第13章

- 1 その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。
- 2 その日一万軍の主のことば—わたしはもろもろの偶像の名を、この地から絶ち滅ぼす。それらの名はもう覚えられない。わたしはまた、その預言者たちと汚れの霊をこの国から除く。
- 3 なお預言する者があれば、その人を生んだ父と母が彼に向かって言う。『あなたは生きていてはならない。主の名を使って嘘を告げたから。』彼が預言しているときに、彼を生んだ父と母が彼を突き刺す。
- 4 その日、預言者たちはみな、自分が預言する幻を恥じる。彼らはもはや人を欺くための毛衣を着なくなる。
- 5 また彼は、『私は預言者ではない。私は土地を耕す者だ。若いときに人が私を買い取った』と言う。
- 6 だれかが『あなたの両腕の間にある、この打ち傷は何か』と聞くなら、彼は『私の愛人たちの家で打たれたものだ』と言う。
- 7 剣よ、目覚めよ。わたしの羊飼いに向かい、わたしの仲間に向かえ—一万軍の主のことば—。羊飼いを打て。すると、羊の群れは散らされて行き、わたしは、この手を小さい者たちに向けよう。
- 8 全地はこうなる—主のことば—。その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。

- 9 わたしはその三分の一を火の中に入れ、銀を錬るように彼らを錬り、金を試すように彼らを試す。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『これはわたしの民』と言い、彼らは『主は私の神』と言う。」

## 第14章

- 1 見よ、主の日が来る。あなたから奪われた戦利品が、あなたのただ中で分配される。
- 2 「わたしはすべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。都は取られ、家々は略奪され、女たちは犯される。都の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は都から絶ち滅ぼされない。」
- 3 主が出て行かれる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。
- 4 その日、主の足はエルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山はその真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ、残りの半分は南へ移る。
- 5 「山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたはわたしの山々の谷に逃げる。ユダの王ウジヤの時に地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げる。」私の神、主が来られる。すべての聖なる者たちも、主とともに来る。
- 6 その日には、光も、寒さも、霜もなくなる。
- 7 これはただ一つの日であり、その日は主に知られている。昼も夜もない。夕暮れ時に光がある。
- 8 その日には、エルサレムからいのちの水が流れ出る。その半分は東の海に、残りの半分は西の海に向かい、夏にも冬にも、それは流れる。
- 9 主は地のすべてを治める王となられる。その日には、主は唯一となられ、御名も唯一となる。
- 10 全土はゲバからエルサレムの南のリンモンまで、アラバのようになる。しかしエルサレムは高くそびえ、ベニヤミンの門から第一の門のところを経て隅の門まで、またハナンエルのやぐらから王家のぶどうの踏み場まで、元の場所にそのまま残る。
- 11 そこには人々が住み、もはや聖絶の物はなく、エルサレムは安らかに住む。
- 12 これは、主がエルサレムを攻めるどの民にも加えられる疫病である。彼らの肉は、まだ足で立っているうちに腐る。彼らの目はまぶたの中で腐り、彼らの舌は口の中で腐る。
- 13 その日、主からの大いなる混乱が、彼らの間に起こる。彼らは互いに手をつかみ合い、互いに殴りかかる。
- 14 ユダもエルサレムで戦う。周りのすべての国々の財宝は、金、銀、衣服など非常に多く集められる。
- 15 馬、らば、らくだ、ろば、彼らの宿営にいるすべての家畜にも、同じような疫病が臨む。
- 16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。
- 17 地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムに上って来ない氏族の上には、雨が降らない。
- 18 もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、疫病が彼らに下る。これは、仮庵の祭りを祝いに上って来ない諸国の民を主が打つ疫病である。

- 19 これが、エジプトの罪への刑罰となり、仮庵の祭りを祝いによって来ないすべての国々の罪への刑罰となる。
- 20 その日、馬の鈴の上には「主への聖なるもの」と刻まれ、主の宮の中の鍋は祭壇の前の鉢のようになる。
- 21 エルサレムとユダのすべての鍋は、万軍の主への聖なるものとなる。いけにえを献げる者はみなやって来て、その一つを取ってそれで煮るようになる。その日、万軍の主の宮にはもう商人がいなくなる。